

最初に

こういった活動は、大きな事故が起こらなかった(無事)ということが最も大切な事実だと思います。コロナ感染といった意味でも、ようやく「無事に終わったね(*^-^*)お疲れさまでした」と伝えたいと思います。大まかに全体として、笑顔が多く見られたと感じています。

「感じて」「考えて」「表現する(行動する)」という時間が貯まって、信頼を土台に置いたチャレンジが成り立ってきているのかなあ?と感じています。

*今年、舞台制作・周辺空間・モノづくり・受付・会場という役割がそれぞれに自立しました。

私は今回、言葉にするとなんだかかっこよく少しよそよそしくなってしまうけれど、一人ひとりが理想を持ち続けることが、好奇心といった心が踊り歩き続けられる原動力となり、評価を求めなくなり、他人からの意見を受け入れられるようになるといったこと、、、多分こういったことをコミュニケーションが取れていると言うのじゃないか?と振り返っています。

*とにかく一緒に何かを成し遂げる経験を積むしか意識を共有する手段はないと感じます。

そんなわけで、今回の study は、芸術祭があったという事実を共有しながら、それぞれが自分に対して感じたことを共有する時間をもちたいと思います。

少しだけ過去にもどって、自分は何を求めていたんだろう? どんないことが嬉しくて、どんないことが悲しかったのか? そんなことが出し合える場所とは、場所よりも集まる人が大切です。

多くの人にとってのそういった場所・空間が、これからの時代に大切になってくると思います。

そのような役割を持てる公共文化施設をそうぞうし続けていきたいと願います。

*今回は少し早く、できてもできなくても、やれてもやれなくても、そんなこと関係なく、

「古に学び、今を歓喜し、未来を想像する」多くの人に役に立てそうな企画を募集したいと思います。

そんな時期が来ていると思います。(°-°)(^^)

【まず報告事項】

- 1) 舞台創作……………上記のことを伊藤・長野で振り返りました。子ども達の振り返り会、大人の意見聴収まだです。これらは、3月の年間活動総まとめあたりで報告できると思います。
 - *山の風 club に関しては、奉仕活動と表現活動の両方が目的となっていることがそれぞれの意識を少しずつ育てているのではないかと(それぞれに理想があるってところ) 継続できるよい土台となりつつあるネ~といった振り返りをしました。
 - *笠井さんから
- 2) 周辺空間……………*森松さんから
- 3) お手玉づくり……………*最初ほぼ1ヶ月前に長野さんから600個!!作ることは出来ないか?と言われ、その時は断ろうと思いました。一晩考えて、今までの座布団型から俵型に変えても良いなら出来るのかな?と心の片隅に「面白そう」という気持ちが生まれました。いっしょに作ってくれる人はいるのかと不安でしたが、杞憂に終わりました。これまでの森劇で作られた人間関係のおかげ

27 名の方が引き受けてくださって、出演者全員の分も合わせて 743 個のお手玉が出来上がりました。

芸術祭当日の会場全体のお手玉のシャラシャラの音は一生忘れません。

頼む事と頼まれる事、めんどろな事でも協力し合える良い人間関係を作る事、それが報われる場所(舞台)がある事、少しずつ育っているのかなと思います。(笠松さん記)

4) 受け付け……………* 深田さんから

5) 会場……………* ドアに一人ずつの担当に加え、全体を見てくれ対応してくれる担当(中西さん)がいたことがとても会場を良い雰囲気にもっていく効力となった。

* 幕間、お手玉のところ、一つ投げお手玉の子ども達を見守る雰囲気、次に自分たちがたのしむ雰囲気、舞台客席の一体感はとても気持ちのいいものだった。(尾崎さんより聞き取り)

【一人ひとりの芸術祭で感じたこと】

ワイワイ…がやがや、……、この雑談が、次の芸術祭をつくると思われます(^^)/

